

Society5.0に備えて、今すべきこと

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。今日は県民の日ですので、栃木県のよさをもっともっと知っていただきたいと思います。
2. ところで、放送をお聴きの皆様は **Society5.0** ということばを時々は耳にすることがあると思いますが、詳しい意味をご存知ですか。先日、栃木県経済同友会の産業政策委員会で、その勉強会がありました。とてもためになりましたので、今回の「開倫塾の時間」では **Society5.0** についてお話させていただきます。
3. **Society** とは、「社会」という意味です。**5.0** があるなら **1.0** もあると思うのですが、私もちょっと勉強不足ですので、基礎的な内容をおさらいさせていただきます。**Society1.0** は狩猟社会です。狩りをする社会ですので、大昔のことになると思います。**Society2.0** は農耕社会で、**Society3.0** は工業社会です。つまり、最初は狩りをして生活する社会、次は農耕をして生活する社会、それから工業化によって生活する社会と進んできたわけです。
4. そして、20年ぐらい前にパソコンなどが大量に市場に出てきて、情報社会ということが盛んに叫ばれました。これが **Society4.0** です。
5. 今、話題になっているのが、**Society5.0** という新たな社会です。内閣府の定義によりますと、**Society5.0** はサイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムによって、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会です。難しくてもよくわかりませんが、例えば、IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)などの最新のテクノロジーを活用することで、経済発展と社会的課題の解決を図り、人間が質の高い生活を送れるようにすることです。
6. 政府が **Society5.0** を提唱している背景には、日本では急速に少子高齢化が進んでいるため、世界の先進国と比較して日本の生産性が非常に低くなっていることがあります。これらの課題の具体的な解決策が、新聞を見ると毎日のように出ていますので、ちょっとだけ紹介させていただきます。

その1つは、タクシードライバーさんが人手不足なので、タクシーに乗るときにはみんなで一緒に乗ることです。

7. 2つ目は、IoTやAIを活用した遠隔診療です。これは、かかりつけの医院や急性期病院に行って直に診察・治療を受けるのではなく、それを離れたところにいるお医者さんにしてもらおうという仕組みです。日本ではあまり行われていませんが、外国では非常に盛んです。外国の事例ですが、自分の病気の手術をロボットアームを使って自分でやられた方がいるというお話を、私の知り合いの医学博士のお医者さんからお聞きしました。本当に驚くような話です。

8. 3つ目は、ドローンを使って空からいろいろなものを見たり運んだりすることです。これは既に栃木県の農業でも盛んに使われ、肥料を撒いたり、いろいろなものを測定してデータを取ったりすることなどが行われているようです。

9. 4つ目は、ウェアラブルという時計のようなものを腕につけて、健康管理に役立てることです。これにより、どこでも血圧や呼吸数などが測れてケアができますので、今後はものすごく流行ると思います。

10. このような Society5.0 で生活するには、インターネットやウェアラブル、スマホを使いこなせないと大変ですよ。今の子供たちは、たとえ2歳でも、iPadなどを預けると使いこなします。幼稚園生もそうですし、小学生・中学生・高校生は体の一部のようになっています。しかし、私を含めて高齢になると、そういうものに馴染んでいませんので、なかなか上手に使えません。ですから、パソコンやスマホ、iPadなどにできるだけ親しみ、情報リテラシーを高めたほうがよいと思います。特に、60歳過ぎの方が大変な状況にあるようですので、みんなで励まし合って勉強していきましょう。そして、Society5.0 が来ても大丈夫なようにしましょう。よろしくお願ひします。